

日本原燃株式会社(再処理事業部) 原子力防災訓練計画 事前説明(5週間前説明)について

		再処理事業部	全社対策本部
全 般	<p>○訓練計画【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期計画上の今年度訓練の位置付け ・今年度の訓練目的、達成目標 ・主な検証項目 ・実施・評価体制 ・訓練の項目・内容(防災業務計画の記載との整合)及び評価基準 ・訓練シナリオ <ul style="list-style-type: none"> -プラント運転状態、事象想定、スキップの有無等 -現状のプラント状態を踏まえた訓練の実施方針 ・その他 <ul style="list-style-type: none"> -ERSS/SPDSの使用 -COPの様式 -即応C、緊対所レイアウト図 -ERC対応ブース配席図、役割分担 -ERC書架内の資料整備状況(資料一覧) <p>○評価指標のうち、主に[P]、[D]に関する内容【資料】 ⇒詳細は以下参照</p> <p>○事業者とERCの訓練コントローラ間の調整 ⇒詳細は以下参照</p> <p>注意: ・【資料】となっているものは面談資料として提示頂くもの(訓練シナリオ(非提示型の場合)、個人名連絡先など、必要な箇所のマスクング処理を確認する。) ・COP:共通状況図のこと。事故・プラントの状況、進展予測と事故収束対応戦略、戦略の進捗状況について認識の共有のために作成される図表であって、各社で様式や名称は異なる。</p>	<p>○「中期計画上の今年度訓練の位置付け」について、資料1に示す。</p> <p>○「今年度の訓練目的、達成目標」、「主な検証項目」、「実施・評価体制」、「訓練の項目・内容(防災業務計画の記載との整合)及び評価基準」、「訓練シナリオ」について、資料2に示す。</p> <p>○その他 -「ERSS/SPDSの使用」について、「指標3:情報共有のためのツール等の活用」にて説明。 -「即応C、緊対所レイアウト図」について、資料3に示す。 -「COPの様式」について、資料4に示す。 -「ERC対応ブース配席図、役割分担」について、「指標1:情報共有のための情報フロー」にて説明。 -「ERC書架内の資料整備状況(資料一覧)」について、資料5に示す。</p>	<p>左記「再処理事業部」欄と同様 (ただし、資料4および資料5は対象外)</p>
	<p><説明資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1-1: 中期計画上の今年度訓練の位置付け、目的・達成目標 ・資料1-2: 日本原燃原子力防災訓練に係る中期対応方針における主な取組み ・資料2-1: 2021年度 再処理事業部 原子力防災訓練(総合訓練)実施計画書 ・資料3-1: 再処理事業部対策本部室 レイアウト図 ・資料4: COP資料一覧 ・資料5: ERC配備資料一覧(抜粋) 	<p><説明資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1-1: 中期計画上の今年度訓練の位置付け、目的・達成目標 ・資料1-3: 中期対応方針における主な取組みに対する全社対策本部中期計画への反映 ・資料2-2: 2021年度 全社対策本部 原子力防災訓練(総合訓練)実施計画書(案) ・資料3-2: 全社対策本部室 レイアウト図 	
指標1: 情報共有のための 情報フロー	<p>○事業所、本店(即応センター)、ERCの3拠点間の情報フローを確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報フローとは、次の5つの情報 <ul style="list-style-type: none"> -①EALに関する情報 -指標2に示す情報(②事故・プラントの状況、③進展予測と事故収束対応戦略、④戦略の進捗状況) -⑤ERCプラント班からの質問への回答について、いつ、どこで、だれが、なにを、どんな目的で、どのように、の観点からみた情報伝達の一連の流れをいう。 <p>○情報フローにおいて、前回訓練における課題及び当該課題を踏まえた改善点を確認する。</p> <p>①前回訓練で情報フローに問題がある場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回訓練での情報共有における問題が発生した事業者は、問題に対する課題の抽出、原因分析及び対策を確認する。 ・その上で、情報フローが対策を反映したものとなっているか確認する。 <p>②前回訓練で情報フローに問題がない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報フローに対し、更なる改善点が無いか検証した結果を確認する。 	<p>○事務所、本店(即応センター)、ERCの3拠点間の情報フローについて、資料6~7に示す。</p>	<p>左記「再処理事業部」欄と同様 (ただし、資料7は対象外)</p>
	<p><説明資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料7: ERCとの情報共有における情報フロー 	<p><説明資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料6: ERCプラント班との情報共有における全体概要情報フロー 	
指標2: ERCプラント班との 情報共有	<p>○ERC対応ブース発話者の育成・多重化の考え方を確認する。</p>	<p>○発話者の育成 発話者育成の観点から、説明者(補助者)を追加し、個別訓練および電力訓練の視察を通じ、要員の育成を図る。</p> <p>○多重化の考え方 増員することで、ERC説明者(補助者)の任務を代替して、対応ができるようにしている。今後、継続して体制強化を実施していく。</p>	<p>○発話者の育成 発話者育成の観点から、説明者および補助者は前年度と異なる者が実施するとともに、個別訓練および電力訓練の視察を通じ、育成を図っていく。</p> <p>○多重化の考え方 増員することで、ERC説明者(補助者)の任務を代替して、対応ができるようにしている。今後、継続して体制強化を実施していく。</p>

		再処理事業部	全社対策本部
指標3: 情報共有のための ツール等の活用	<p>3-1 プラント情報表示システムの使用 ○使用するプラント情報表示システムを確認する(実発災時とシステムの差異も確認する)</p> <p>3-2 リエゾンの活動 ○事業者が定めるリエゾンの役割を確認する</p> <p>3-3 COPの活用 ○COPの作成・更新のタイミング、頻度を確認する</p> <p>3-4 ERC備付け説明の活用 ○ERC備付け資料の更新状況を確認する</p>	<p>3-1 プラント情報表示システムの使用 ・ERSSあり</p> <p>3-2 リエゾンの活動 -</p> <p>3-3 COPの活用 ・事故・プラントの状況に変化が生じた時 ・戦略を作成するとき、戦略に変更が生じた時</p> <p>3-4 ERC備付け資料の活用 ・原子力防災訓練実施前に資料の改正および配備を予定。</p>	<p>3-1 プラント情報表示システムの使用 -</p> <p>3-2 リエゾンの活動 ・質疑応答対応 ・事故対応状況以外の質問事項 ・資料配布 (COP、EAL基準判断表、MP情報) ・ERC広報班との情報共有 (プレス文、記者会見、HP公開等)</p> <p>3-3 COPの活用 -</p> <p>3-4 ERC備付け資料の活用 -</p>
指標4: 確実な通報・連絡 の実施	<p>(①通報文の正確性) ○通報FAX送信前の通報文チェック体制、通報文に誤記等があった際の対応を確認する ○発出したEALが非該当となった場合の対応を確認する ○通報に使用する通信機器の代替手段を確認する</p> <p>(②EAL判断根拠の説明) ○EAL判断根拠の説明方法(情報の入手や説明資料など)を確認する</p> <p>(③10条確認会議等の対応) ○10条確認会議、15条認定会議の事業者側対応予定者の職位・氏名を確認する ○10条、15条認定会議について、会議招集に対し速やかに対応できたことを確認。 ○会議において発生事象、事象進展の予測、事故収束対等の説明が適切かつ簡潔に行われたことを確認。</p> <p>(④第25条報告) ○25条報告の発出タイミングの考え方を確認する ○訓練事務局側が想定する、今回訓練シナリオ上の25条報告のタイミング、報告内容(発生事象と対応の概要、プラント状況、放出見通し/状況、モニタ・気象情報など)、回数(訓練シナリオ中に記載されているか)を確認する</p>	<p>①通報文の正確性 <通報FAX送信前の通報文チェック体制> ○通報文作成チームが「通報文作成時確認チェックシート」を用いて、記載内容の誤記や記載漏れを防止する。 また、通報文作成時に、事業部対策本部内の機能班による内容確認を行う。</p> <p><通報文に誤記等があった際の対応> ○通報文の誤記等が発生した場合には、訂正箇所をマーキング、取消し線などで明示した通報文を作成し、通報先へ送付、電話連絡で補足する。 (その時の通報文は、訂正報として、通報文の回数には含まない。)</p> <p><EAL格下げまたは取り消しの対応> ○原子力防災管理者が、EAL格下げまたは取り消しの判断を行った場合は、その時点に対応する通報文にて格下げまたは取り消しするEALを明示し、その根拠を記載し、通報連絡する。 ○なお、その時点に対応する通報文とは、警戒事象発生以降は「警戒事態該当事象発生後の経過連絡」様式を、特定事象発生以降は「応急措置の概要」様式のことをいう。</p> <p><通報に使用する通信機器の代替手段> ○一般回線、衛星携帯電話およびFAX(自主配備)で行う。</p> <p>②EALの判断根拠 EALの判断フローに基づいて判断する。 EALの判断フローについて、資料8に示す。</p> <p>③10条確認会議等の対応者 -</p> <p>④第25条報告 5通報告予定 (報告タイミングは資料2-1参照)</p> <p><説明資料> ・資料8:EAL判断フロー</p>	<p>①通報文の正確性 -</p> <p>②EALの判断根拠 -</p> <p>③10条確認会議等の対応者 職位: <input type="text"/> 氏名: <input type="text"/> 個人情報のため、マスキング</p> <p>④第25条報告 -</p> <p><説明資料> -</p>

		再処理事業部	全社対策本部
指標5: 中期計画の見直し	<p>○見直し状況、見直し内容、令和3年度訓練実施計画の位置づけを確認する</p> <p>○見直し後の中期計画を確認する</p> <p>○前回訓練の訓練報告書提出以降から次年度訓練まで対応実績・スケジュール(作業フローなど)について、以下のPDCAの観点で概要を確認する</p> <p>【観点】</p> <p>前回訓練の訓練報告書提出から今回訓練までと今回の訓練を踏まえた[C]及び[A]、中期計画及び原子力防災業務計画への反映[P]の時期</p> <p>[C]訓練報告書のとりまとめ時期</p> <p>[A]対策を講じる時期</p> <p>—具体的な対策の検討、マニュアル等へ反映、周知・教育／訓練など(前回の訓練実施結果報告書に掲げた各課題についての対応内容、スケジュール)</p> <p>—原子力事業者防災業務計画への反映の検討事項・時期(定期見直し含む)</p> <p>[P]中期計画等の見直し事項・時期、次年度訓練計画立案時期</p> <p>○前回訓練実施後の面談時に説明したPDCA計画を再度参考添付する</p>	<p>○当社の中期対応方針について、資料9に示す。</p> <p>○中期計画について、資料10に示す。</p> <p>○訓練実施後の改善スケジュールについて、資料11に示す。</p>	<p>左記「再処理事業部」欄と同様</p>
	<p><説明資料></p> <p>・資料9:日本原燃原子力防災訓練に係る中期対応方針</p> <p>・資料10-1:再処理事業部 中長期訓練計画書(2021年度~2024年度)(案)</p> <p>・資料11-1:令和3年度 防災訓練実施後の改善スケジュール(再処理事業部)</p>	<p><説明資料></p> <p>・資料9:日本原燃原子力防災訓練に係る中期対応方針</p> <p>・資料10-2:全社対策本部 原子力防災訓練中期計画(案)</p> <p>・資料11-2:2021年度(令和3年度) 防災訓練実施後の改善スケジュール(全社対策本部)</p>	
指標6: 前回訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定	<p>○訓練実施計画が、前回訓練の訓練結果を踏まえ、問題・課題に対する改善策が有効に機能するものであるか検証できる計画(訓練実施項目、訓練シナリオ等)となっていることを確認する</p> <p>○訓練時における当該改善策の有効性の評価・確認の方法(例えば訓練評価者が使用する評価チェックリスト(改善策の有効性を検証するための評価項目、評価基準などが明確になっているもの)が作成されていることなど)を確認する</p> <p>○課題の検証につき、社内自主訓練・要素訓練、他事業所の訓練で対応している場合は、その検証結果を確認する</p> <p>○今年度の訓練で課題検証を行わない場合にあっては、その理由と検証時期の説明、中期計画等への反映状況を確認する。また、今年度の訓練で課題検証を行わずとも緊急時対応に直ちに問題は無いことを確認する</p>	<p>○前回訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定について、資料12に示す。</p>	<p>左記「再処理事業部」欄と同様</p>
	<p><説明資料></p> <p>・資料12:前回訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定(再処理事業部)</p>	<p>左記「再処理事業部」欄と同様</p>	
指標7: シナリオ非提示型訓練の実施状況	<p>○開示する範囲、程度(一部開示の場合、誰に／何を開示するのか具体的に記載)及びその設定理由を確認する</p>	<p>○事業部対策本部要員および全社対策本部要員に対してシナリオ非提示で実施</p> <p>○シナリオ作成の検討に携わった者は、訓練コントローラとして訓練に参加し、プレーヤとして活動は行わない。</p>	<p>左記「再処理事業部」欄と同様</p>

		再処理事業部	全社対策本部
<p>指標8: シナリオの多様化・ 難度</p>	<p>○訓練シナリオのアピールポイントを確認する</p> <p>○シナリオ多様化に関し、付与する場面設定を確認する</p> <p>○訓練プレーヤへ難度の高い課題をどのように与えているか確認する例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間: 要員が少ない時間帯 ・場所: 対応が困難となる場所 ・気象: 通常訓練で想定しない天候や組み合わせなど ・体制: キーとなる要員の欠員 ・資機材: 手順外の資機材の活用 ・計器故障: EAL判断計器または重要計器故障、これに伴う代替パラメータでの確認 ・人為的ミス: 操作や報告のミス ・OFC対応: 要員派遣に加え、オンサイトと連携した活動 ・判断分岐: マルチエンディング、途中の判断分岐 ・その他: 複数の汚染傷病者など 	<p>○アピールポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再処理施設、廃棄物管理施設における同時発災を想定 ・一時機能した非常用発電機の途中機能喪失 ・初期重大事故対策作業の遅延によるEAL判断(AL44)及びその後の取消し報告の実施 ・現場負傷者の発生による対策作業の遅延 <p>○場面設定など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間: - ・場所: 再処理施設、廃棄物管理施設で発災 <p>・気象: 天候は曇り、南東の風3m/s、大気安定度D(気象条件固定)</p> <p>・体制: 事業部対策本部を立上げ</p> <p>・資機材: -</p> <p>・計器故障: -</p> <p>・人為的ミス: -</p> <p>・OFC対応: 要員派遣(要員の派遣、資機材の立ち上げ、問い合わせ対応)</p> <p>・判断分岐: -</p> <p>・その他:</p> <ol style="list-style-type: none"> ①対策作業要員の負傷(汚染あり) ②構内見学者(模擬者)の避難誘導 ③外部電源喪失 ④ガラス固化体用輸送容器の落下事象の発生(現場点検、サーベイ) ⑤全社対策本部に対する追加の燃料手配要請 	<p>○アピールポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発災事業部への資機材等の支援・協力 ・各施設情報整理および情報共有 <p>○場面設定など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間: - ・場所: - <p>・気象: -</p> <p>・体制: -</p> <p>・資機材: 支援拠点の一般回線電話不通</p> <p>・計器故障: -</p> <p>・人為的ミス: -</p> <p>・OFC対応: 要員派遣(要員の派遣、全社対策本部との情報共有)</p> <p>・判断分岐: -</p> <p>・その他:</p> <ol style="list-style-type: none"> ①社外からの問合せ対応 ②外部電源喪失
<p>指標9: 広報活動</p>	<p>○評価要素①～④それぞれについて、対応、参加等の予定を確認する</p>	<p>右記「全社対策本部」欄と同様</p>	<p>評価要素①: ERC広報班と連動したプレス対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全社対策本部要員より1名派遣し、ERC広報班と連動したプレス対応を実施 <p>評価要素②: 記者等の社外プレーヤの参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社外プレーヤ1～2名程度の参加予定 <p>評価要素③: 模擬記者会見の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記②のプレーヤを含めた模擬記者会見の実施 <p>評価要素④: 情報発信ツールを使った外部への情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬ホームページへの掲載を想定し、社内データベースへの掲載を実施

		再処理事業部	全社対策本部
指標10: 後方支援活動	<ul style="list-style-type: none"> ○評価要素①～③それぞれについて、具体的活動予定(特に、実動で実施する範囲を明確にすること)を確認する ○一部を要素訓練で実動し、残りを総合訓練で実動するなど、複数の訓練を組み合わせて一連の後方支援活動の訓練を実施する場合は、その内容を確認する 	右記「全社対策本部」欄と同様	<p>評価要素①:原子力事業者間の支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子力事業者間協力協定に基づく幹事電力への支援要請 ・青森県内原子力事業者安全推進協定に基づく幹事会社への支援要請 ・全事業部合同の要素訓練として、2021年下期(時期は未定)に青森県内事業者を招集した支援拠点訓練を実施予定 <p>評価要素②:後方支援拠点との連動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害対策支援拠点の設置および全社対策本部との通信確立 ・災害対策支援拠点におけるエアレントの設置(実動訓練)を実施 <p>評価要素③:原子力緊急事態支援組織との連動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子力緊急事態支援組織への支援要請 ・全事業部合同の要素訓練として、2021年度下期(時期は未定)に遠隔操作資機材の操作訓練を実施予定 ・原子力緊急事態支援組織でのロボット操作訓練に2021年下期(時期は未定)に参加予定
指標11: 訓練への視察など	<ul style="list-style-type: none"> (①他原子力事業者への視察) ○他事業者への視察実績、視察計画を確認する (②自社訓練の視察受け入れ) ○自社訓練の視察受け入れ計画(即応C、緊対所それぞれの視察受け入れ可能人数、募集締め切り日、募集担当者の氏名・連絡先)を確認する (③ピアレビュー等の受入れ) ○ピアレビュー等の受入れ計画(受入れ者の属性、レビュー内容等)を確認する 	<p>①他原子力事業者への視察実績、視察計画</p> <p>他原子力事業者の訓練の視察として、ERC対応の視察(TV会議)を計画している。 なお、今年度実施の他原子力事業者のその他訓練の視察を実施している。 【原子力事業者防災訓練】 ・2021/10/8:東北電力(株)東通発電所訓練視察(2名)</p> <p>②自社訓練の視察受け入れ計画 ・右記「全社対策本部」欄と同様</p> <p>③ピアレビュー等の受入れ計画 ・右記「全社対策本部」欄と同様</p>	<p>①他原子力事業者への視察実績、視察計画</p> <p>他原子力事業者の訓練の視察として、ERC対応の視察(TV会議)を計画している。 なお、今年度実施の他原子力事業者のその他訓練の視察を実施している。 【原子力事業者防災訓練】 ・2021/9/7:JAEA人形峠環境技術センター(1名、濃縮2名) ・2021/9/10:東京電力HD(株)福島第一、第二原子力発電所訓練視察(1名、再処理2名) ・2021/9/24:関西電力(株)高浜原子力発電所訓練視察(1名、再処理1名) ・2021/10/1:九州電力(株)玄海原子力発電所訓練視察(2名)</p> <p>②自社訓練の視察受け入れ計画</p> <p>青森県内の原子力事業者に対して募集予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊対所・即応センターの視察受け入れ可能人数:5名 ・募集締め切り日:2021年11月16日(訓練2週間前) ・募集担当者の氏名・連絡先: 氏名: 連絡先: 個人情報のため、マスクング <p>③ピアレビュー等の受入れ計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JANSI、関西電力他を評価者として受け入れ予定 ・他原子力事業者(青森県内事業者)を訓練評価者として受け入れ予定
指標12: 訓練結果の自己評価・分析	-	-	-
指標13, 14: 訓練参加率	<ul style="list-style-type: none"> ○発電所参加予定人数(うち、コントローラ人数)を確認する ○即応センター参加人数(うち、コントローラ人数)を確認する ○リエゾン予定人数を確認する ○評価者予定人数を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ○再処理事業部対策本部(即応センター含) 参加予定人数: 約450人(うち、コントローラ約10人予定) ○リエゾン予定人数: 右記「全社対策本部」欄と同様 ○評価者予定人数: ・再処理事業部対策本部:約10名予定 (緊対所、中央制御室、各現場(初動対応、蒸発乾固及び水素爆発対策、避難訓練、救護訓練等)に評価者を配置し、評価予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ○全社対策本部(即応センター) 参加予定人数: 約100人(うち、コントローラ6人) ○リエゾン予定人数:6名(プラント班5名、広報班1名)予定 ○評価者予定人数: ・全社対策本部:5名予定 (全社対策本部室、即応センター2(H1)、記者会見室、後方支援拠点、OFCに配置し評価予定) ・上記の他、他原子力事業者の評価者を配置予定

		再処理事業部	全社対策本部
備考： 現場実動訓練の実施	○現場実動訓練の実施内容	○現場実動訓練の実施内容 ・重大事故等発生時の事象収束対応(アクセスルート確認、拡大防止対策(一部)) ・建屋外対応班による放水作業 ・負傷者の救助、サーベイ ・見学者の避難誘導	○現場実動訓練の実施内容 ・後方支援拠点における通信設備立上げおよびテント設営
	○事故シナリオに基づき実施する緊急時対策所の活動との連携を確認する	○事故シナリオに基づき実施する緊急時対策所の活動との連携に係る説明 ・緊急時対策所による中央制御室からの情報収集。 ・実施責任者(統括当直長)による重大事故対処への移行判断に伴う事象収束に必要な活動の実施。 ・緊急時対策所は、支援組織として実施組織に必要な支援、情報収集による社内外への情報提供を実施。	○事故シナリオに基づき実施する緊急時対策所の活動との連携に係る説明 ・後方支援拠点から全社対策本部への状況報告
【補足】 事業者とERCの訓練コントローラー間の調整事項	○ERC広報班との連動の有無	右記「全社対策本部」欄と同様	○ERC広報班との連動の有無 ・ERC広報班との連動での訓練を実施する。
	○TV会議接続先(即応C、OFC、緊対所)	右記「全社対策本部」欄と同様	○TV会議接続先(即応C、OFC、緊対所) ・即応センター2(H1)
	○リエゾンの人数(プラント・広報)、入館時刻、訓練参加タイミング	右記「全社対策本部」欄と同様	○リエゾンの人数(プラント・広報)、入館時刻、訓練参加タイミング 【プラント班】 ・人数：東京支社5名予定(内、2名見学者) ・入館時刻：13:00 ・訓練参加タイミング： 地震発生に伴いERCプラント班が立ち上がったタイミングから20分後(地震発生後30分後) 【広報班】 ・人数：東京支社2名予定 ・入館時刻：13:00 ・訓練参加タイミング： 地震発生に伴いERCプラント班が立ち上がったタイミングから20分後(地震発生後30分後)
	○訓練終了のタイミング、その後の振り返りの要否	○訓練終了のタイミング、その後の振り返りの要否 ・現場の事象収束後に発信する、原災法第25条報告をERCプラント班に説明したタイミングで訓練を終了する。 ・その後、訓練振り返りの反省会(PM)を実施する。	左記「再処理事業部」欄と同様
	○ERSS使用に係る当庁情報システム室との調整状況	○ERSS使用に係る当庁情報システム室との調整状況 ・11月30日の訓練時に、模擬情報の入力により訓練を実施する方向で、今後NRA情報システム室殿と調整する。	左記「再処理事業部」欄と同様
	○事前通信確認実施の要否	右記「全社対策本部」欄と同様	○事前通信確認実施の要否 不要
	○即応Cコントローラーの所属、氏名、連絡先	右記「全社対策本部」欄と同様	○即応Cコントローラーの所属、氏名、連絡先 ・即応センター2(H1) 所属： 氏名： 連絡先： 個人情報のため、マスクング 所属： 氏名： 連絡先： 個人情報のため、マスクング ※本訓練において、即応センター1(H2W)は使用予定なし。
	○ERC対応者の職位、氏名	-	○ERC対応者の職位、氏名(予定) (対応者：即応センター2(H1)) 役職： 氏名： 個人情報のため、マスクング 役職： 氏名： 個人情報のため、マスクング 役職： 氏名： 個人情報のため、マスクング
○訓練時、メールを利用したERCプラント班への資料提供の実施の有無	○訓練時、メールを利用したERCプラント班への資料提供の実施の有無 ・ERCリエゾンを通して資料提供を行うため、メールを利用したERCプラント班への資料提供は予定していない。	左記「再処理事業部」欄と同様	

2021年度 再処理事業部
原子力防災訓練（総合訓練）実施計画書
（案）

日本原燃株式会社
再処理事業部

1. 訓練の目的

本訓練は、「再処理事業所 再処理事業部 原子力事業者防災業務計画 第2章第5節 2」に基づき原子力災害に対する緊急時対応能力の習熟・向上を図ることを目的とする。

また、本訓練は、「再処理事業部非常時等の措置に係る中長期訓練計画」に基づき、「前年度訓練課題の確実な改善」をねらいとし改善・検証等を行い、さらなる原子力災害に対する緊急時対応能力の向上を図る。

具体的な達成目標、検証項目は以下のとおり。

(1) 「昨年度の訓練課題への対応」

達成目標：事業部対策本部から即応センターへ情報伝達、通報連絡を実施できること（再処理施設・廃棄物管理施設での発災を想定）

検証項目：①整備された情報フローが適切に運用されていること

②全社対策本部に対して事故・プラントの状況、進展予測、事故収束対応戦略および戦略の進捗状況を随時伝達できること。また、上記状況を事業部対策本部内で適切に共有できること

③通報文に誤記、漏れ等がなく速やかに通報できること

(2) 「緊急時対応体制の強化」

達成目標1：事業部対策本部・全社対策本部が連携して、支援協力を実施できること

検証項目1：全社対策本部に対する支援要請が適切にできること

達成目標2：現場と緊急時対策所組織が連携し、事象収束活動を適切に実施できること

検証項目2：重大事故対応等の事象収束活動について、予め定めた時間、要員、装備で問題無く実施できること

2. 実施日時および対象施設

(1) 実施日時

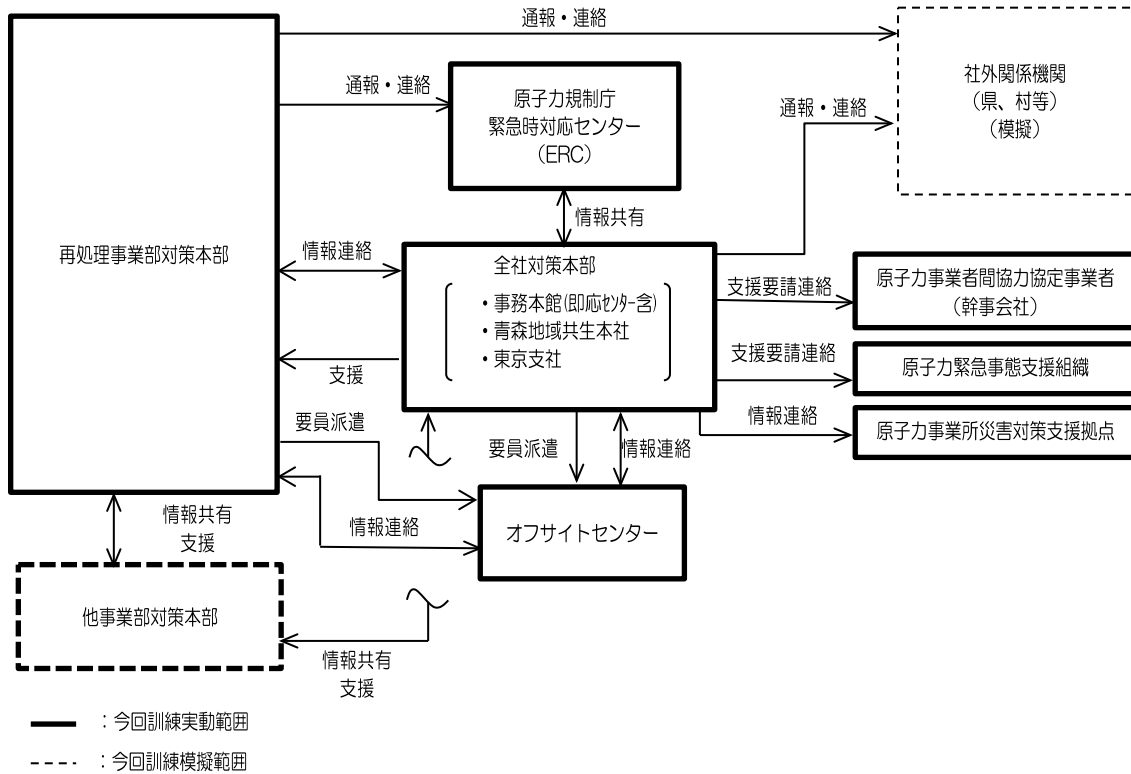
2021年11月30日(火) 13:00～17:00（予定）(反省会含む)

(2) 対象施設

再処理施設、廃棄物管理施設

3. 実施体制、評価体制および訓練対象者

(1) 実施体制



(2) 評価体制

再処理施設、廃棄物管理施設および事業部対策本部に評価者を配置し、評価チェックシートを用いた評価を行う。また、訓練終了後に訓練参加者による訓練反省会を実施し、要改善事項の抽出を行う。

(3) 訓練対象者

再処理事業部対策組織要員

4. 防災訓練の項目

総合訓練

5. 防災訓練の内容

再処理事業部対策本部の訓練の内容

- (1) 事業部対策本部対応訓練
- (2) 通報訓練
- (3) 救護訓練
- (4) モニタリング訓練
- (5) 避難誘導訓練
- (6) その他必要と認める訓練
 - a. E R C 対応訓練
 - b. 重大事故対応の習熟訓練
 - c. 広報対応訓練

6. 防災訓練のために想定した原子力災害の概要

原子力災害対策特別措置法（以下「原災法」という。）第15条事象に至る原子力災害を想定した。詳細は以下のとおり。

- (1) 訓練形式
 - a. 訓練は、プレーヤーに訓練シナリオを事前に通知しない「シナリオ非提示型」により実施する。
 - b. 訓練は、事故シナリオに基づき、緊急時対策所および現場実働との連携体制にて行う。
- (2) 施設運転状況設定
 - a. 再処理施設については、環境条件として、しゅん工後を想定する。このため、重大事故対策設備の工事・配備を完了済みとして訓練を行う。
 - b. 再処理施設：再処理運転停止中。
 - c. 廃棄物管理施設：受入建屋において天井クレーンにより輸送容器キャスクを吊り上げ中。
- (3) 事象想定

非公開情報（シナリオ非開示）

非公開情報（シナリオ非開示）

7. 訓練における作業安全について

全体訓練の実施にあたり、訓練参加者は、訓練中の労働災害の防止のため、以下を実施する。

- ①現場作業に従事する訓練参加者は、全体訓練開始前に自己の体調を確認し、体調不良の場合は所属長と調整の上、現場作業の担当交代を行う。
- ②現場作業に従事する訓練参加者は、全体訓練中に体調の異変を感じた場合は、直ちに作業を中断・休息するとともに、所属長に報告する。休息の際、装備（全面マスク、酸素呼吸器、タイベック等）は必要に応じて脱装すること。
- ③防災業務課長は、全体訓練で体調不良者が発生した場合は、内容に応じて、訓練の継続または部分的な中止、延期等を判断する。
- ④防災業務課長は、全体訓練中に訓練参加者の人身事故が発生した場合、直ちに訓練を中止する。

⑤その他トラブルが発生した場合は、再処理事務所西棟一階大会議室にて、必要要員を抽出し対応する。

8. 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策のため、以下の対応を実施する。

- ①訓練参加者(現場対応者含む)は、原則マスク着用とする(ただし、防護具類着用時は除く)。
- ②緊急時対策所内で活動する要員は可能な限り人数を制限して対応する。
- ③緊急時対策所内は、換気を実施するとともに、座席には可能な範囲で飛散防止板またはビニールシートなどによる仕切りを設置する。

以 上

2021年度 全社対策本部
原子力防災訓練（総合訓練） 実施計画書
（案）

日本原燃株式会社
安全・品質本部

1. 訓練の目的

本訓練は、「再処理事業所 再処理事業部 原子力事業者防災業務計画 第2章第5節2」に基づき、原子力災害に対する緊急時対応能力の習熟・向上を図ることを目的とする。

また、本訓練は、「全社対策本部 原子力防災訓練中期計画」に基づき、「前年度訓練課題の確実な改善」をねらいとし、E R Cプラント班との情報共有および事業部・全社の連携強化の課題の改善・検証を行い、さらなる原子力災害に対する緊急時対応能力の向上を図る。

具体的な達成目標、検証項目は以下の通り。

(1) 「全社対策本部とE R Cとの情報共有、通報・連絡」

達成目標：E R Cプラント班との間で、あらかじめ整備した情報フローに基づき、情報共有のためのツール等を活用して、事故・プラントの状況、進展予測と事故収束対応戦略、戦略の進捗状況およびE A L判断根拠について、タイムリーにかつ確実に情報共有ができること。

検証項目：①**全社対策本部**は、C O P・戦略シート等を活用して、事故・プラント状況・進展予測と事故収束対応戦略、戦略の進捗状況について、情報の優先度に応じた目標時間内にE R Cプラント班と情報共有していること。

②10条確認および15条認定会議において、E A L判断根拠、発生事象・進展予測・事故収束対応の説明を適切にできること。

(2) 「事業部・全社の連携強化」

達成目標：**全社対策本部**は、事業部対策本部から情報を入手し、事業部対策本部に対して必要な支援ができること。

検証項目：①**全社対策本部**の各機能班は、それぞれの任務を果たしていること。

②**全社対策本部**は、事業部対策本部からの事故・プラントの状況、進展予測、事故収束対応戦略などの情報について、情報共有データベース、音声共有システムなどの情報共有ツールを用いて入手し、**全社対策本部**内で共有できること。

③**全社対策本部**は、事業部対策本部から資機材などの支援要請に対し、融通先を決定し、支援ができること。

2. 実施日時および対象施設

(1) 実施日時

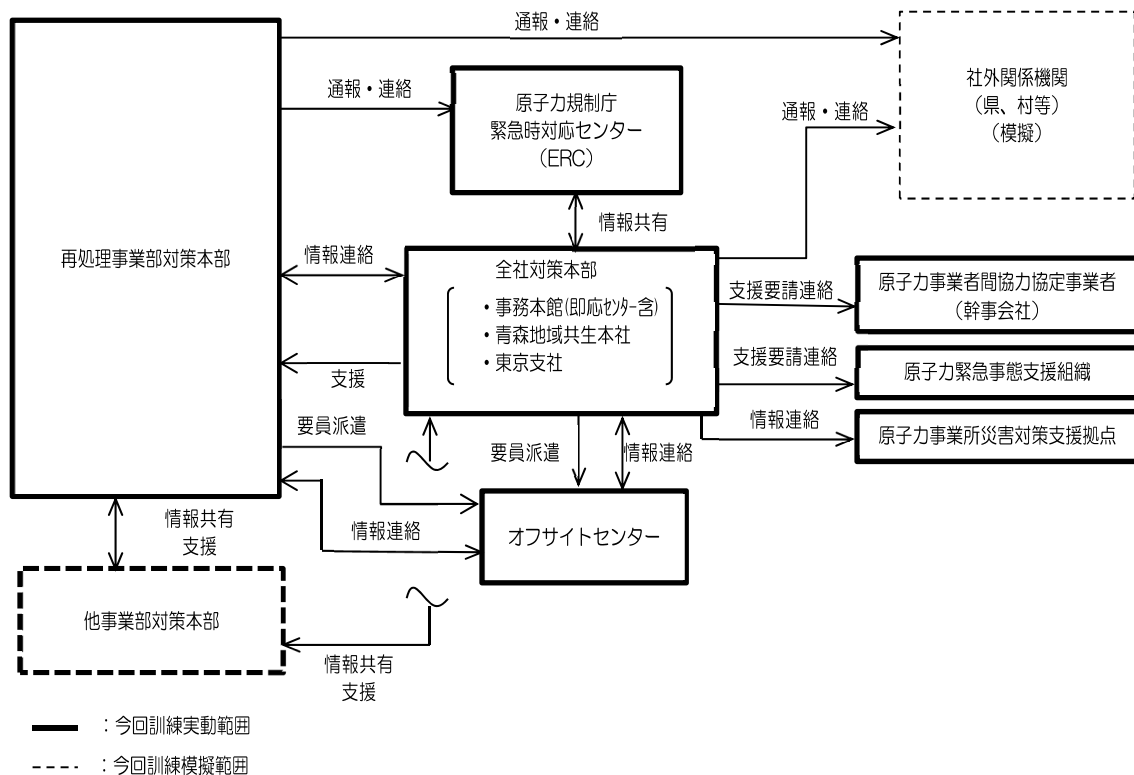
2021年11月30日(火) 13:00~17:00(予定)(反省会含む)

(2) 対象施設

- a. 再処理施設
- b. 廃棄物管理施設

3. 実施体制、評価体制および訓練対象者

(1) 実施体制



(2) 評価体制

全社対策本部室（ERC 対応ブースを含む）、原子力事業所災害対策支援拠点、オフサイトセンター、模擬記者会見場の各拠点に評価者を配置し、評価者による評価および訓練終了後に訓練参加者による訓練反省会等を通じて、改善事項の抽出を行う。

(3) 訓練対象者

全社対策本部要員

4. 防災訓練の項目

(1) その他必要と認める訓練

- a. 全社対策本部運営訓練
- b. ERC 対応訓練
- c. 原子力事業所災害対策支援拠点設営訓練
- d. オフサイトセンター設営訓練
- e. 広報対応訓練

5. 防災訓練のために想定した原子力災害の概要

(1) 訓練形式

訓練は、プレーヤーに訓練シナリオを事前に通知しない「シナリオ非提示型」により実施する。

(2) 事象想定

原災法第15条事象に至る原子力災害を想定する。

シナリオフローを添付資料(1)に示す。

6. 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策のため、以下の対応を実施する。

- ・訓練参加者(現場対応者含む)は、「検温の実施」および「マスク（または、マウスシールド）の着用」とする。
- ・全社対策本部室内で活動する要員は可能な限り人数を制限するものとし、他要員は自席もしくは会議室等に対応する。
- ・全社対策本部室内は、換気を実施するとともに、座席には可能な範囲でアクリル板（または、ビニールシート）を設置する。

7. 添付資料

- (1) 全社対策本部 防災訓練 シナリオフローおよび検証ポイント

以 上

ERCとの情報共有における情報フロー

2021年10月28日
再処理事業部

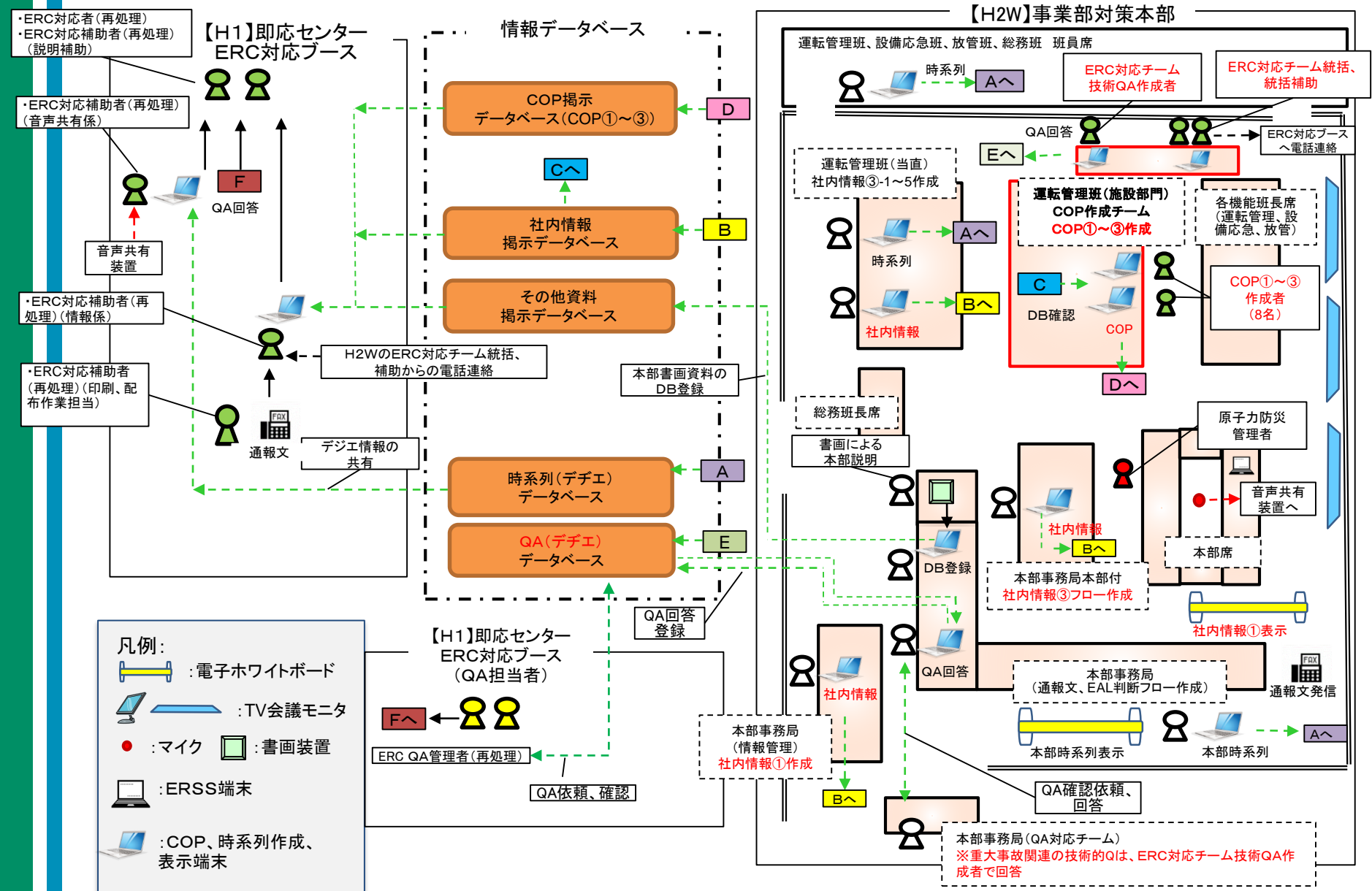


日本原燃株式会社

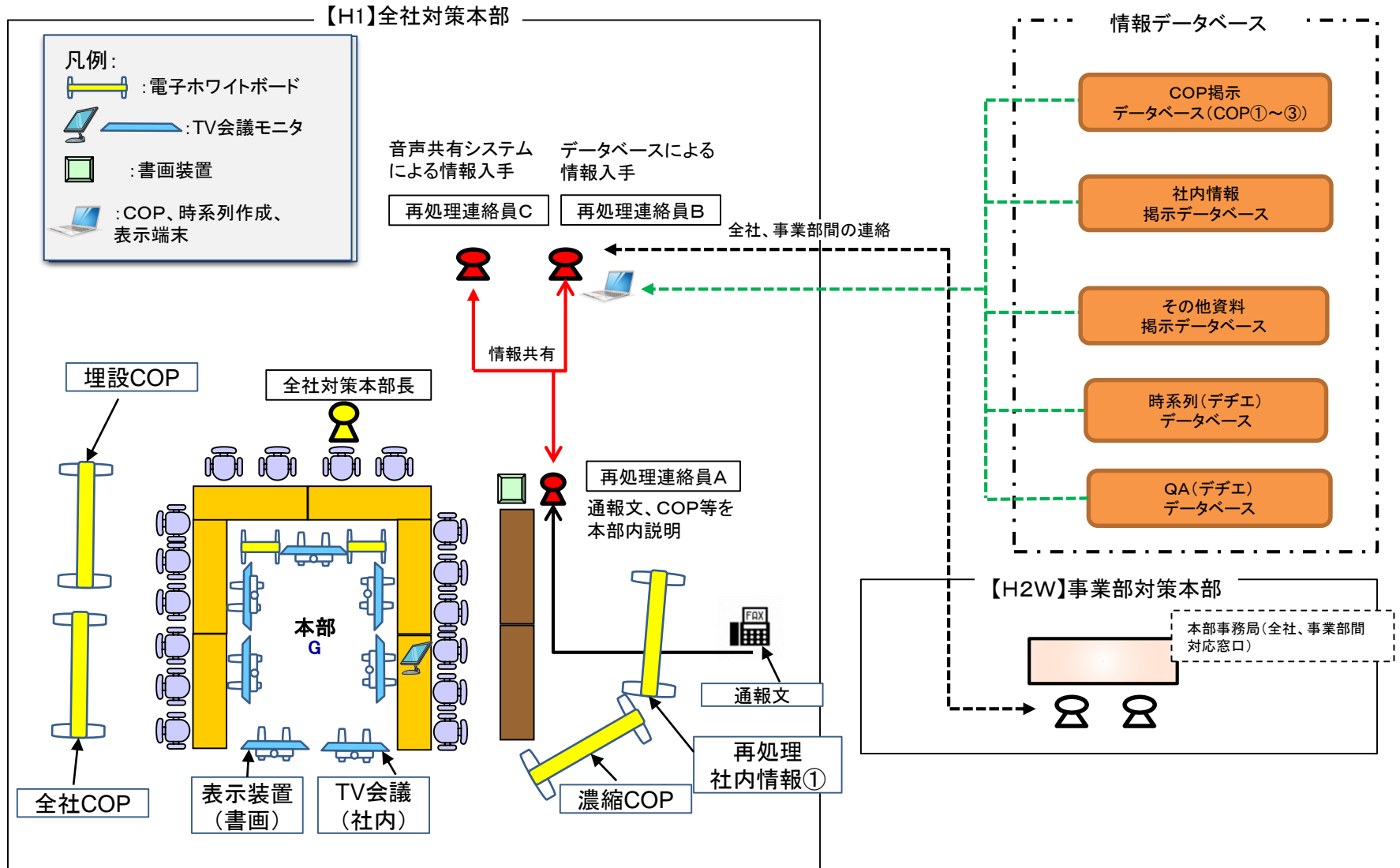
目次

1. E R C対応ブース（H2W）配席図
2. 全社対策本部（H1） 再処理連絡員配席図
3. E R C対応チームの構成・役割
4. 情報フロー図
 - a. EALに関する情報フロー
 - b. 通報文に関する情報フロー
 - c. 施設状況、事象収束戦略、進捗状況に関する情報フロー
 - d. 質問対応に関する情報フロー

1. ERC対応ブース (H1・H2W) 配席図



2. 全社対策本部（H1） 再処理連絡員配席図



3. E R C対応チームの構成・役割

名 称	実施すべき役割
統括者（全社）	<ul style="list-style-type: none"> ・ E R C対応の全体統括（ERCプラント班への説明の優先順位の判断を含む） ・ 全体の仕切り ・ E R C対応者が本筋から外れた説明をした際の修正・フォロー ・ E A L判断時の発話確認 ・ 1 0条確認会議等対応者への情報共有 ・ 説明用のCOPの判断
1 0条確認会議等対応者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 0条確認会議・1 5条認定会議対応者
ERC対応者（全社） 【全社情報のメインスピーカーとして整理】	<ul style="list-style-type: none"> ・ メインスピーカー（全体の仕切りの補助を兼ねる） ・ E R C対応補助者（全社）から得た以下の情報について、統合原子力防災ネットワークを用い、情報提供をする。 全施設の取りまとめ情報（火災・負傷者の情報を含む）、後方支援関係の情報、E R C質問回答など また、各事業部の連絡員が到着しない場合は、当該施設のERC対応者の役割
ERC対応者（再処理） 【再処理および廃棄物管理施設のメインスピーカーとして整理】	<ul style="list-style-type: none"> ・ メインスピーカー ・ E R C対応補助者（再処理）から得た以下の情報について、統合原子力防災ネットワークを用い、情報提供をする。 警戒態勢の発令、警戒事態該当事象発生連絡、警戒事態経過連絡、第1次緊急時態勢の発令、原災法第10条通報、第2次緊急時態勢の発令、原災法第15条通報、原災法第25条報告、設備の状況（COP、モニタリングポストデータ、プラントデータ等）、進展予測・事故収束対応戦略、戦略の進捗状況、E R C質問回答
ERC対応補助者（全社） （説明補助）	<ul style="list-style-type: none"> ・ E R C対応者（全社）への情報共有（説明すべき情報のスクリーニングを含む） ・ 説明の補助（資料（COP、通報文、備付け資料等）へのマーカーなど） ・ 説明用COPに最新情報を記入（情報が古い場合） ・ Q A管理者から連絡を受けた質問回答を確認し、E R C対応者（全社）へ情報共有 ・ サブスピーカー（メインスピーカー（E R C対応者（全社）のフォロー）＜緊急情報の割り込みも含む＞ ・ E R C対応者（全社）が不在の場合の代行者 ・ E R C対応者（全社）へデジエの情報共有 ・ 各事業部のE R C対応補助者（説明補助）が到着しない場合は、当該施設に係る説明補助
ERC対応補助者（再処理） （説明補助）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記に加えて、COP、通報文、デジエからの情報収集および情報整理

3. E R C対応チームの構成・役割

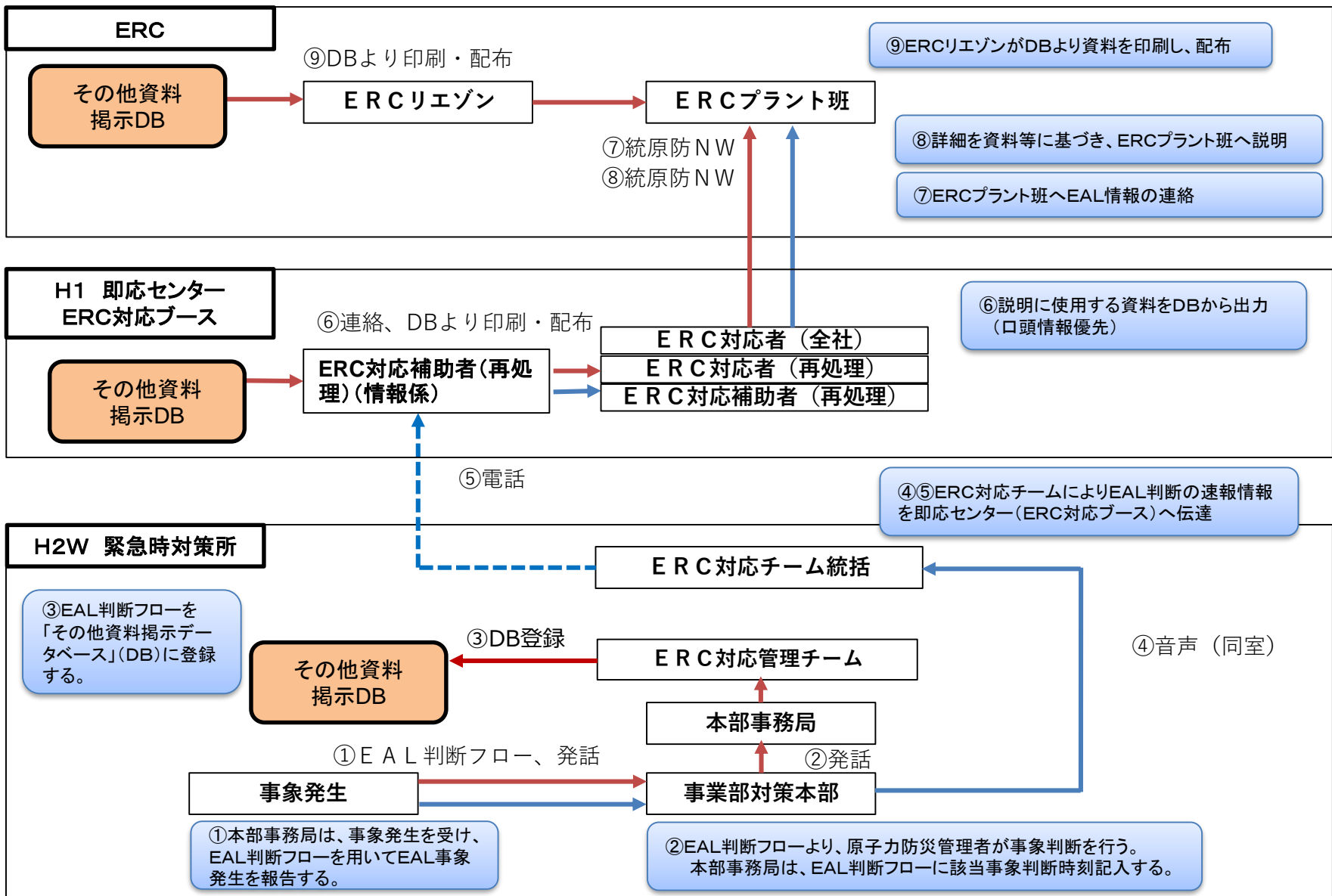
名称	実施すべき役割
ERC対応補助者（再処理）（音声共有係）	<ul style="list-style-type: none"> 各事業部の状況について音声共有システムによる情報入手および情報提供 ERC対応補助者（再処理）（説明補助）へ再処理事業部のデヂエ情報共有
ERC対応補助者（全社）（情報係）全社担当	<ul style="list-style-type: none"> 全社対策本部取りまとめ情報のERC対応補助者（全社）（説明補助）全社・再処理担当への提供 ERC対応補助者（全社）（説明補助）に変更・追加点の説明 ERC対応ブース内の情報の全社対策本部事務局への提供 ERCリエゾン連絡窓口への情報提供
ERC対応補助者（再処理）（情報係）	<ul style="list-style-type: none"> 事業部DBからの情報（COP、プラント情報、戦略シート等）の入手、通報文の入手 ERC対応補助者（再処理）（説明補助）に変更・追加点の説明 事業部対策本部との情報共有（情報連絡）（緊急性を要する質問の回答を促す等） ERCリエゾン連絡窓口への情報提供
ERCリエゾン連絡窓口	<ul style="list-style-type: none"> ERC派遣者（東京）との情報連絡窓口 ERCリエゾンへの資料送付・管理 リエゾンのQA管理
QA管理者（全社）	<ul style="list-style-type: none"> ERCプラント班からの質問事項（全社関連）をデヂエに入力する ERC対応補助者へ質問回答を指示する 質問回答が完了後、デヂエにその旨を入力する 適宜QA管理表を確認し、回答の遅い事項について、回答を促す
QA管理補助者（全社）	<ul style="list-style-type: none"> ERC QA管理者の補助 ERC QA管理者が不在の場合の代行者
QA管理者（再処理）	<ul style="list-style-type: none"> ERCプラント班からの質問事項（再処理関連）をデヂエに入力する ERC対応補助者へ質問回答を指示する 質問回答が完了後、デヂエにその旨を入力する 適宜QA管理表を確認し、回答の遅い事項について、回答を促す
QA管理補助者（再処理）	<ul style="list-style-type: none"> ERC QA管理者（再処理）の補助 ERC QA管理者（再処理）が不在の場合の代行者

4. 情報フロー図

- a. EALに関する情報フロー
- b. 通報文に関する情報フロー
- c. 施設状況、事象収束戦略、進捗状況に関する情報フロー
- d. 質問対応に関する情報フロー

3-a. EALに関する情報フロー

青: 音声
赤: 資料

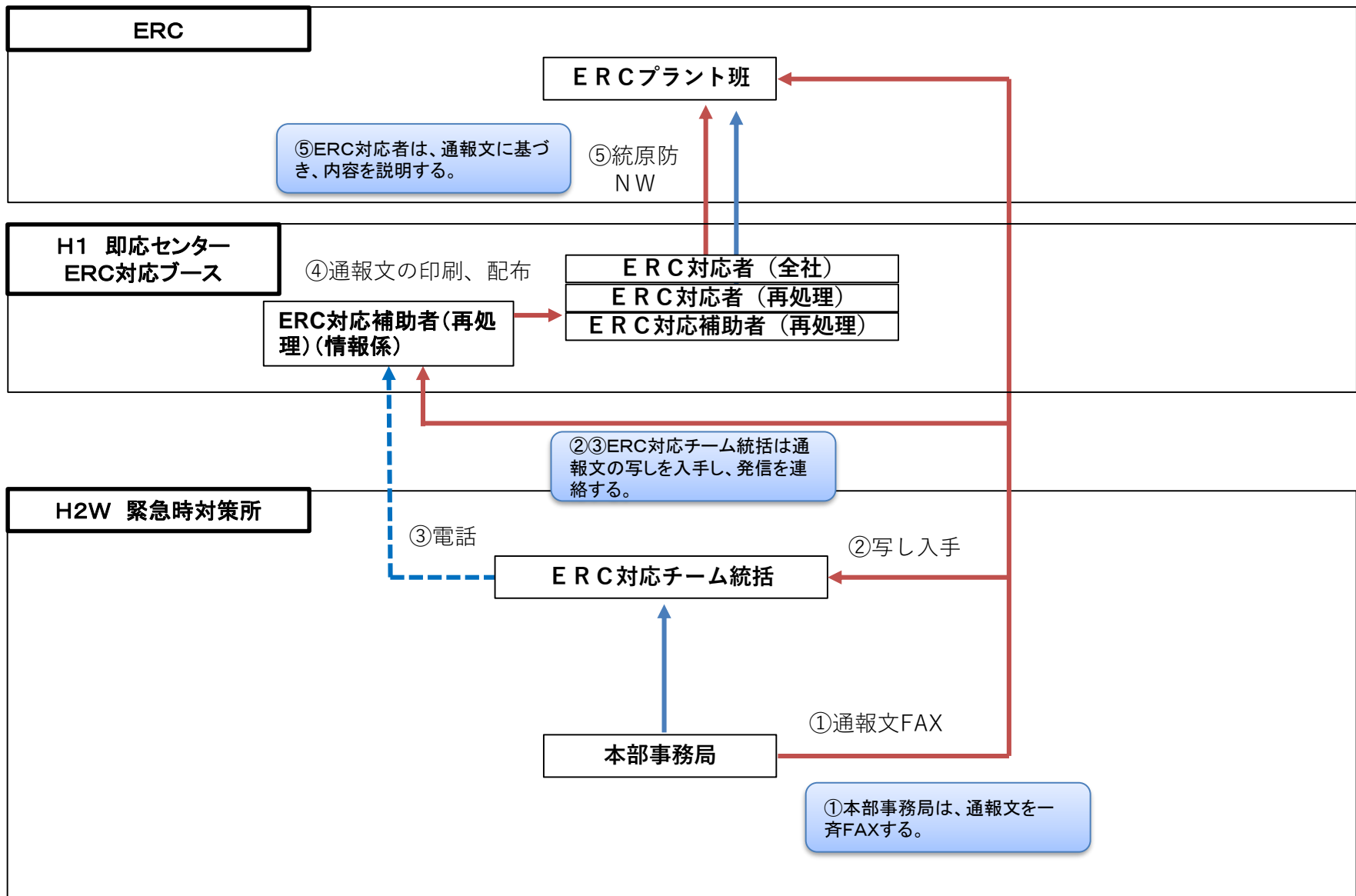


3-a. EALに関する情報フロー

	いつ	だれが	誰に	何の情報を	どうやって
①	EAL 該当事象発生時	本部事務局	事業部対策本部長	EAL に該当するプラント状況になった旨を報告	EAL 判断フロー、発話
②	①報告了解後	事業部対策本部長	緊急時対策所内	EAL 該当事象発生時の判断	発話（本部復唱確認） ※本部事務局は該当事象判断時刻をEAL判断フローに記入。
③	②によりEAL 該当事象発生時の情報が共有された時	ERC対応管理チーム	ERC対応補助者（再処理）（情報係）、ERC対応チーム統括、ERCリエゾン	EAL 判断フロー（該当事象判断時刻記入）	その他資料揭示データベース登録
④	②によりEAL 該当事象発生時の情報が共有された時	事業部対策本部長	ERC対応チーム統括	EAL 該当事象発生時の判断	本部発話の音声聞き取り
⑤	②によりEAL 該当事象発生時の情報が共有された時	ERC対応チーム統括	ERC対応補助者（再処理）（情報係）	EAL 判断の速報情報	電話
⑥	⑤の連絡を確認した時	ERC対応補助者（再処理）（情報係）	ERC対応補助者（再処理）（→ERC対応者（再処理）、ERC対応者（全社））	再処理からEAL情報の連絡	口頭、その他資料揭示データベースの印刷資料
⑦	⑥の連絡を確認した時	ERC対応者（再処理）	ERCプラント班	EAL 判断の説明（速報）	統原防NW（口頭）
⑧	⑦の情報を確認した時	ERC対応者（再処理）	ERCプラント班	EAL 判断の説明	統原防NW（書画装置）
⑨	③のDB登録後	ERCリエゾン	ERCプラント班	EAL 判断の説明	印刷・配布

3-b. 通報文に関する情報フロー

赤:資料



3-b. 通報文に関する情報フロー

	いつ	だれが	誰に	何の情報を	どうやって
①	通報連絡様式を作成したとき	本部事務局	ERCプラント班 (H1即応センターへも同時発信)	通報文 (AL・AL経過・SE・GE・25条)	FAX
②	①の通報文発信後	本部事務局	ERC対応チーム統括	通報文 (AL・AL経過・SE・GE・25条)	通報文(写)の印刷配布
③	②通報文(写)を受領	ERC対応チーム統括	事業部連絡員補助者 (再処理)	通報文の発信連絡	電話
④	①通報文(FAX)の受信または、③の通報文の発信連絡時	ERC対応補助者 (再処理)(情報係)	ERC対応補助者 (再処理)(→ERC対応者(再処理)、ERC対応者(全社))	通報文の発信連絡	統原防NW
⑤	①通報文(FAX)の受信または、③の通報文の発信連絡時	ERC対応(再処理)	ERCプラント班	通報文の説明	統原防NW(口頭、書画装置)

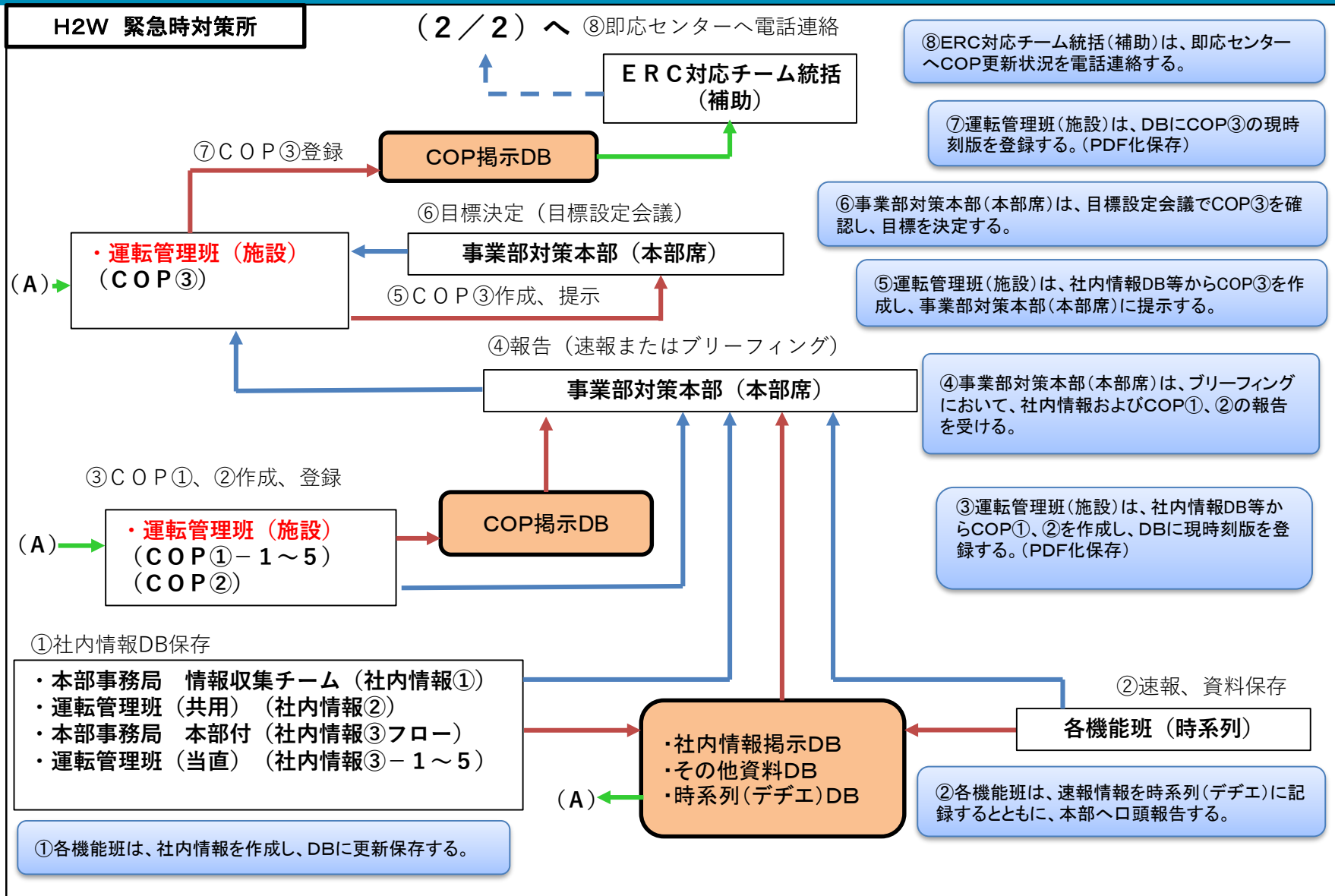
<補足>

○着信確認の都度、事象内容は統原防NWで説明することをERCに確認し、了承が得られた場合通報文発信者から説明を省略する。

○通報文を説明する前に、EAL判断フローにて主要な内容は説明していることが考えられるため説明省略の了解を得た場合には、説明は不要とする。

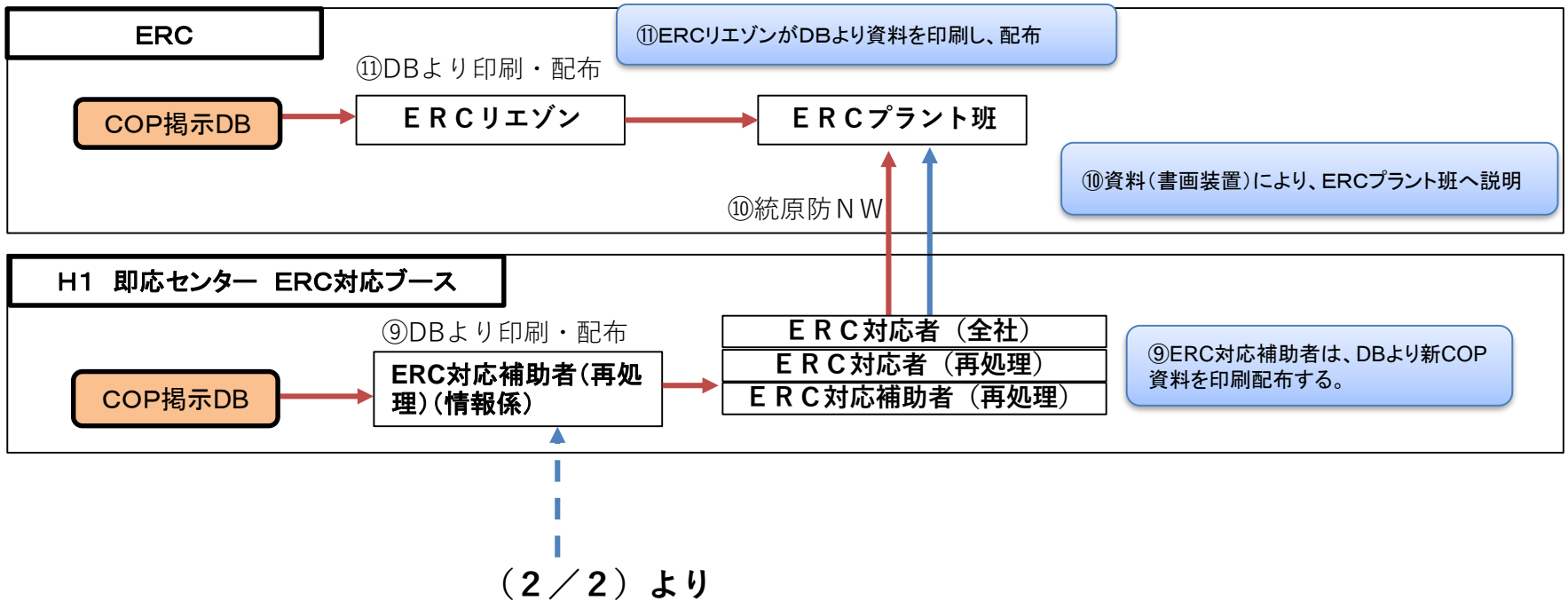
3-c. 施設状況、事象収束戦略、進捗状況に関する情報フロー (1 / 4)

青: 音声
赤: 資料
緑: データ



3-c. 施設状況、事象収束戦略、進捗状況に関する情報フロー (2 / 4)

青: 音声
赤: 資料
緑: データ



3 - c. 施設状況、事象収束戦略、進捗状況に関する情報フロー（3 / 4）

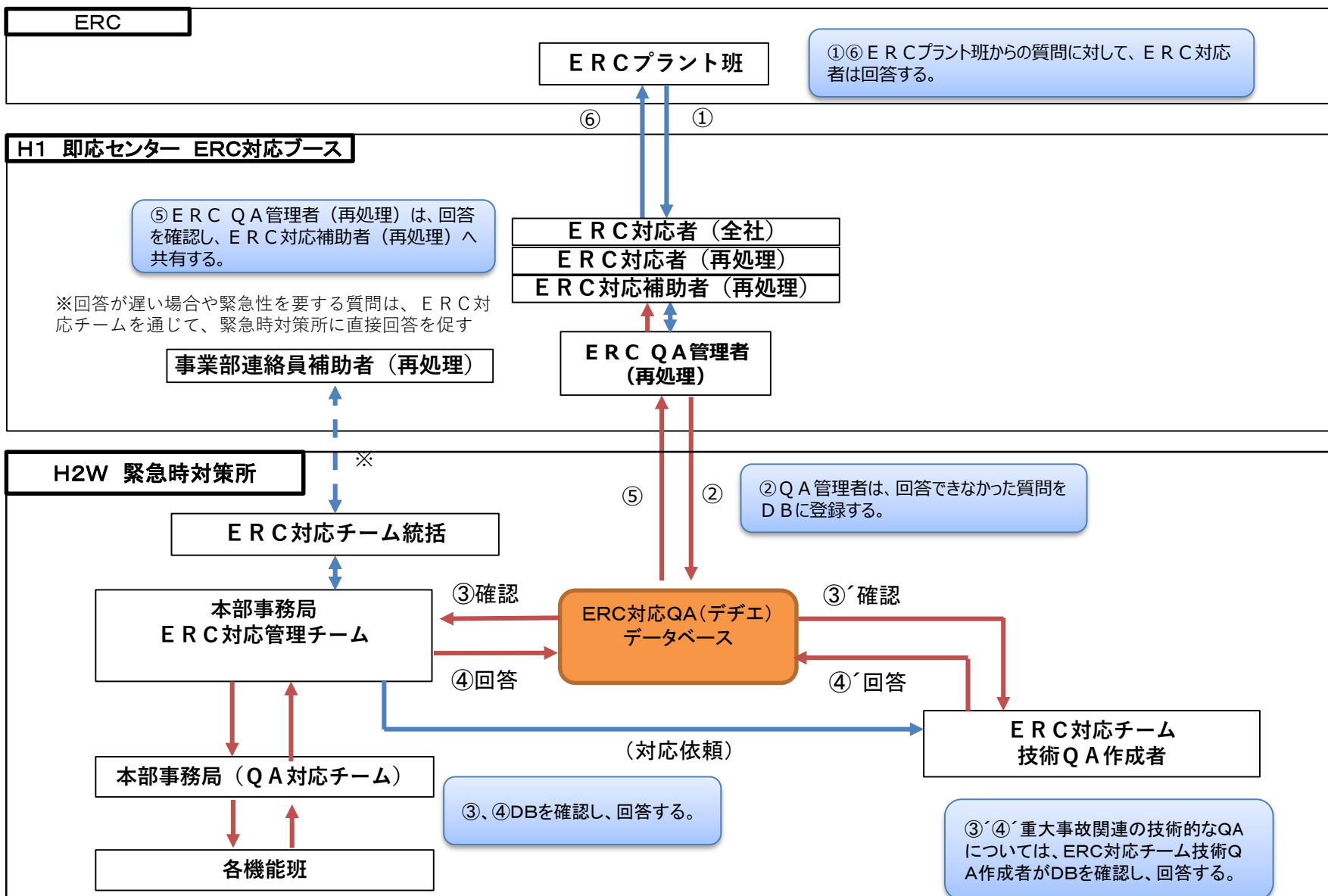
	いつ	だれが	誰に	何の情報を	どうやって
①	適宜（事象発生時、状況変化時）	本部事務局 情報収集チーム、本部事務局本部付、運転管理班（共用、当直）	D B 入力	事故、プラント状況（社内情報①） 電源状況（社内情報②） S A 作業概要（社内情報③フロー） S A 作業進捗（社内情報③- 1 ~ 5）	社内情報掲示 D B への入力、保存
②	適宜（事象発生時、状況変化時）	事業部対策本部内の各機能班	事業部対策本部（本部席）及び D B 入力	事故・プラント状況（速報、時系列情報）	口頭報告 その他資料 D B、時系列（デジエ） D B への入力、保存
③	適宜（事象発生時、状況変化時）	運転管理班（施設部門）	D B 入力	C O P ①（全体概要図、重大事故対策の対策状況） C O P ②（設備状況シート）	C O P 掲示 D B への入力、P D F 化保存
④	ブリーフィング実施時	本部事務局 情報収集チーム、本部事務局本部付、運転管理班（共用、当直）、運転管理班（施設部門）	事業部対策本部（本部席）	事故、プラント状況（社内情報①） 電源状況（社内情報②） S A 作業概要（社内情報③フロー） S A 作業進捗（社内情報③- 1 ~ 5） C O P ①（全体概要図、重大事故対策の対策状況） C O P ②（設備状況シート）	口頭報告 D B 情報表示（画面表示）
⑤	目標設定会議時	運転管理班（施設部門）	事業部対策本部（本部席）	C O P ③（戦略シート）	口頭報告 D B 情報表示（画面表示）

3 - c. 施設状況、事象収束戦略、進捗状況に関する情報フロー（4 / 4）

	いつ	だれが	誰に	何の情報を	どうやって
⑥	目標設定会議時	事業部対策本部（本部席）	－	COP③（戦略シート）	口頭指示（戦略目標決定）
⑦	目標設定会議終了後	運転管理班（施設部門）	COP 掲示DB	COP③（戦略シート）（目標設定会議結果反映）	COP 掲示DBへの入力、PDF化保存
⑧	COP 掲示DBの更新時	ERC対応チーム統括	ERC対応補助者（再処理）（情報係）	COPのDB登録	電話
⑨	⑧の連絡を確認時	ERC対応補助者（再処理）（情報係）	ERC対応補助者（再処理）（→ERC対応者（再処理）、ERC対応者（全社））	事故・プラント状況、戦略目標の整理結果（COP①～③）	印刷・配布
⑩	⑨の情報を確認した時	ERC対応者（再処理）	ERCプラント班	事故・プラント状況、戦略目標の整理結果（COP①～③）	統原防NW（口頭、書画装置）
⑪	COP 掲示DBへの入力、保存時	ERCリエゾン	ERCプラント班	COP、連絡報	印刷・配布

3-d. 質問対応に関する情報フロー (1 / 2)

青:音声
赤:資料
緑:データ



3-d. 質問対応に関する情報フロー（2 / 2）

	いつ	だれが	誰に	何の情報を	どうやって
①	質問事項があった時	E R C 対応者（全社）、 E R C 対応者（再処理）	E R C プラント班	E R C プラント班への質問回答	統原防NW
②	①の質問に対して、 確認を要する場合	Q A 管理者（再処理）	D B 入力	質問内容	E R C 対応 Q A（デ ヂエ）D B への入力
③	E R C 対応 Q A （デヂエ）D B へ の質問入力時	E R C 対応管理チーム	—	質問内容	E R C 対応 Q A（デ ヂエ）D B の確認
④	E R C 対応 Q A （デヂエ）D B へ の質問回答時	E R C 対応管理チーム	D B 入力	質問に対する回答	E R C 対応 Q A（デ ヂエ）D B への入力
③'	E R C 対応 Q A （デヂエ）D B へ の質問入力時	E R C 対応チーム技術 Q A 作成者	—	質問内容（重大事故関連の技 術的質問）	E R C 対応 Q A（デ ヂエ）D B の確認
④'	E R C 対応 Q A （デヂエ）D B へ の質問回答時	E R C 対応チーム技術 Q A 作成者	D B 入力	質問に対する回答（重大事故 関連の技術的質問）	E R C 対応 Q A（デ ヂエ）D B への入力
⑤	④、④' の回答入 手時	Q A 管理者（再処理）	E R C 対応補助者 （再処理）	質問に対する回答、質問に対 する回答（重大事故関連の技 術的質問）	口頭（必要に応じ資 料印刷）
⑥	④、④' の回答入 手時	E R C 対応者（全社）、 E R C 対応者（再処 理）	E R C プラント班	E R C プラント班への質問回 答	統原防NW